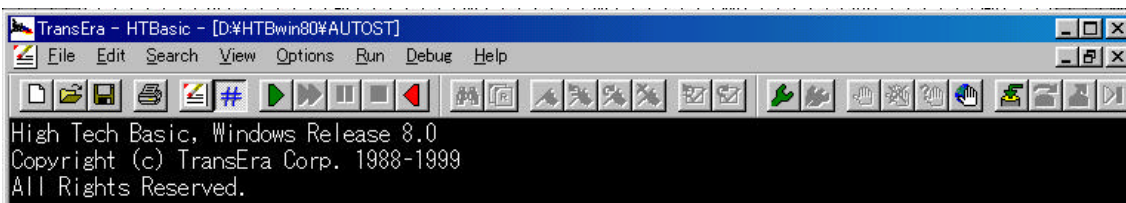
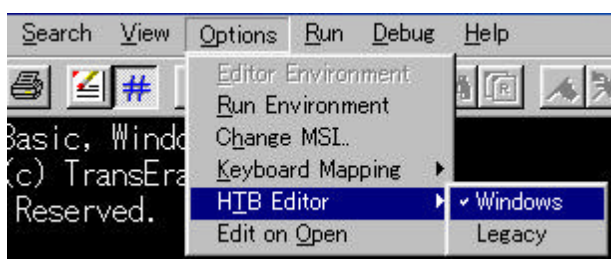


### 3. ウィンドウズエディタ

従来の HP BASIC 型のエディタ (レガシーエディタ) に加えて、HTBasic8.0 では新しくウィンドウズ型のエディタもサポートします。この新しいエディタを使うには Option (オプション) メニューから HTB Editor (HTB エディタ) オプションを選択します。



[ HTBasic8 の新しいコントロール・ツールバー ]



現在のエディタの選択状態に応じて Legacy オプションか Windows オプションのいずれかの脇に、チェック印がついて表示されます。

使用するエディタスタイルを Option HTB Editor で Legacy スタイルか、

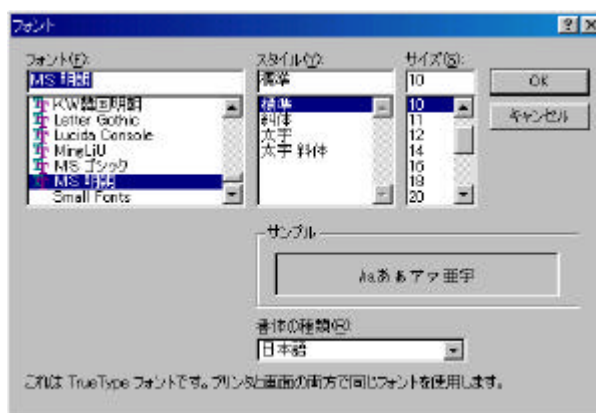
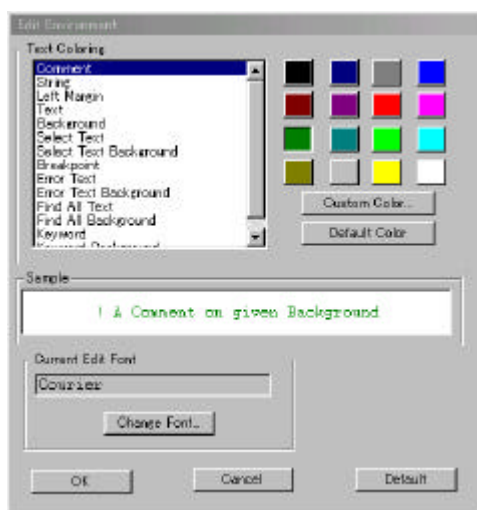
Windows スタイルかオプションで選択をします。どちらかは、チェックマークで確認できます。

まず、日本語表示ができるようにしましょう。

Options | Editor Environment をドラッグします。

ここでフォントを変更します。

この例では MS 明朝を選択しました。この操作により日本語の使用が可能になります。



プログラム内でのコーディングでは、次の一行が必要になります。

CONTROL CRT,100;1 ! 実行時に日本語が使用できます。

新しいエディタの特色は次の通りです。

- 1) 行番号の表示/非表示切替え
- 2) テキストのカット、コピーおよびペースト
- 3) 操作の取り消し(Undo) およびやり直し(Redo)
- 4) ブックマークの挿入
- 5) ユーザ定義可能なソースコード・カラー

#### 1) 行番号の表示/非表示切替え

Legacy エディタとの大きな違いは行番号の表示/非表示出来るようになったことです。行番号の表示が"On"の場合、ウィンドウ型エディタでは行番号を編集するのに RNumber, COPYLINES および MOVELINES コマンドしか使えない事を除けば、行番号の操作は Legacy エディタでの従来の操作と同じです。行番号表示が"Off"の場合、行番号は表示されませんが、行番号自体が削除されるわけではありません。MOVELINES コマンドのような編集用のステートメントでは非表示の行番号も参照することが出来、互換性が保たれています。

行番号の表示/非表示を行うには、プログラムウィンドから View(表示)メニューを選択します。行番号表示が"On"の時には、Line Number(行番号)オプションの脇にチェックが表示されます。また行番号の表示切替は、コントロール・ツールバーの Line Number(行番号)ボタンを使っても指定できます。(Appendix 1 参照)

#### 2) テキストのカット、コピーおよびペースト

新しいエディタでは、まず Windows 標準のマウス機能が実装されました。テキストのカット、コピーおよびペーストが出来るようになり、ソースコードをより手軽に編集することが出来ます。

これらの新しい編集機能はプログラムウィンドの Edit(編集)メニューから選ぶことが出来ます。例えばコピーなら、Edit(編集)メニューから Copy(コピー)を選択します。またマウスを使ってコピーしたい部分をハイライト(左ボタンを押しながら終点までドラッグ)してから Ctrl+C を押すか、あるいは、エリア選択した時点で右クリックしてポップアップメニューを表示させ、そこからコピーコマンドを指定することも出来ます。

#### 3) 操作の取り消し(Undo) およびやり直し(Redo)

Windows 標準として実装されたもうひとつの機能は、操作の取り消し(Undo) およびやり直し(Redo)です。例えば直前の動作を取り消すには、Edit(編集)メニューから Undo(取り消し)オプションを選びます。取り消しは何度も連続して指定する事ができます。また、ショートカットキーの Ctrl+Z (取り消し)、Ctrl+Y (やり直し) も使う事ができます。

#### 4) ブックマークの挿入

コード内より簡単に移動できるようにするために、新エディタにはブックマーク機能が追加されました。ブックマークを挿入するには、ブックマークを挿入したい位置へカーソルを動かしてから、サーチツールバーからブックマークメニューの Toggle Bookmark(ブックマーク挿入/削除)ボタン (Appendix1 参照) を選びます。

選択された行の脇に、四角いマークが挿入されます。また Bookmark メニューから Add Bookmark(ブックマークを追加)オプションを選択するか、あるいは Ctrl+F6 キーを押してもブックマークを挿入する事が出来ます。

ブックマーク間を移動するには、サーチツールバーのブックマークメニュー (Appendix1 参照) で Previous Bookmark(前のブックマーク)ボタンか Next Bookmark(次のブックマーク)ボタンを選択します。また、Bookmark(ブックマーク)メニューから Previous Bookmark または Next Bookmark オプションを選ぶか、ショートカットキーの Ctrl+F7 (Next) か Ctrl+Shft+F7 (Previous) を使っても移動することが出来ます。

各ブックマークを削除するには、削除したいブックマークのある行へカーソルを移動し、Bookmark(ブックマーク)メニューの Remove(削除)オプションを選択します。(Bookmark メニューの Add Bookmark(ブックマークを追加)オプションはブックマークが選択されてアクティブ状態に、あるときには Remove オプションに切り替わります。)ブックマークが選択されているときに使える) または、Ctrl+F6 を押すか、サーチツールバーから Toggle Bookmark(ブックマークを挿入/削除)を選択します。ブックマークを全て削除するには、サーチツールバーから Remove All Bookmarks (全て削除) ボタンを選びます。

プログラム開発を軟に行うために、新エディタでは、ユーザーはコード中にエラーを残しておくことができます。エラーコードはデフォルトでは赤で表示されます。エラー間を移動するには、サーチツールバー (Appendix1 参照) から、Previous Error (前のエラー) ボタンまたは Next Error (次のエラー) ボタンを選びます。

また Bookmarks メニューから Previous Error か Next Error オプションを選んでも移動することが出来ます。

##### 5) ユーザ定義可能なソースコード・カラー

ウィンドウ型エディタでは、エディタ環境の色やフォントをカスタマイズすることが出来ます。個々のユーザの必要に応じて、ソースコードの色を個別に設定することが出来ます。キーワード、コメント、エラー、テキスト、ブレイクポイントおよび各種背景などの設定をしておすことが出来ます。(Figure1:New Program Window 参照)

エディタのデフォルト設定を変更するには、プログラムウィンド (Appendix2 参照) から Options (オプション) | Editor Environment (エディタ環境) と選択します。色編集をしたい項目を選択し、色を指定してから OK ボタンを押して選択内容を保存します。カスタムカラーを使うことも出来ます。エディタ環境をデフォルト設定に戻すには Default (デフォルト) ボタンを選らんで、OK ボタンを押します。全てのエディタ機能についてフォント設定を変更するには、Font (フォント) ボタンを選んで、利用可能な固定ピッチのフォントのリストを表示します。

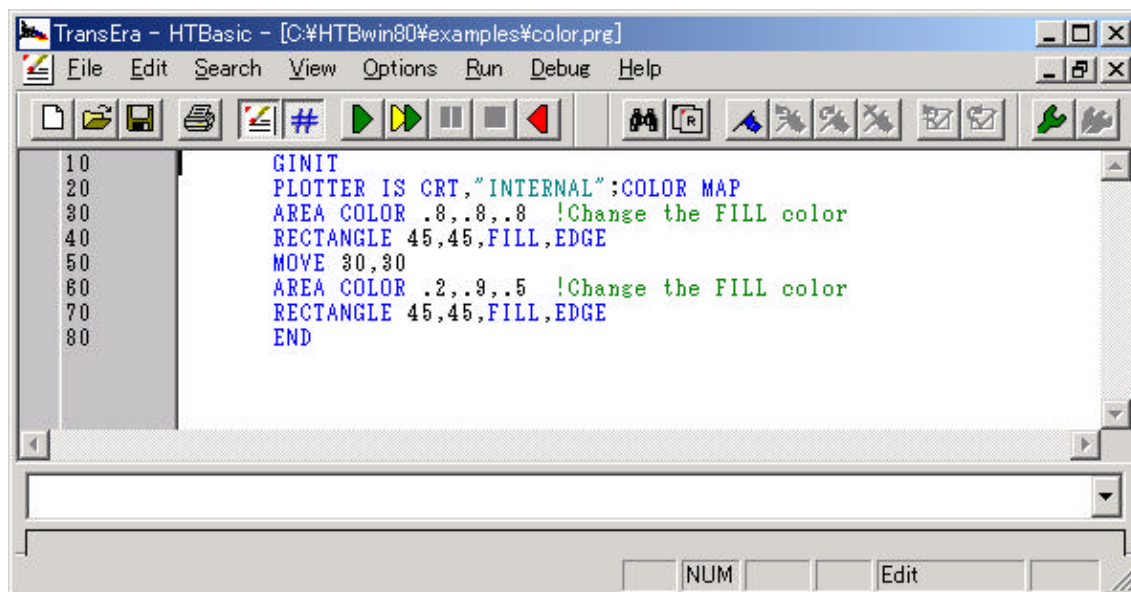


Figure1: New Program Window